



自転車の青切符



自転車の青切符の導入を盛り込んだ改正道路交通法が2026年(今年)の4月1日に施行されます。政府は、昨年6月に自転車の悪質な交通違反に対して交付される“青切符”の反則金額を決定しました。ちなみに、対象者は16歳以上で、青切符が切られる対象は、113の違反行為です。

自転車が関係する事故における死亡者数は、2024年で327人でした。そのうち約8割に、自転車側に信号無視や一時不停止などの交通違反がありました。さらに自転車の携帯電話やスマホの“ながら運転”による死亡・重傷事故は2024年で28件と過去最多となり、10年間で3倍以上に増えています。(左図参照)

自動車事故全体は、原付なども含めてここ何十年と減少していますが、自転車事故は横ばいです。つまり、比率的には、交通

事故の中で自転車の事故はだんだん増えている感じになっています。そこが、今回の制度改正に踏み切った一つの理由です。

下の表は、警察庁が示し、政府が決定した自転車の交通違反に対する反則金です。

これまで、街中でよく見られる自転車の景色がたくさん含まれていると分かります。

これまでに一度も下表に示された反則行為をしたことがないという人は少ないのではないのでしょうか。



“青切符”主な反則金と反則

反則金(円)	反則行為
12,000	スマホなどの「ながら運転」
7,000	遮断機下りた踏切立ち入り
6,000	逆走 歩道通行 信号無視 など
5,000	イヤホン着用のうえ必要な音が聞こえない状態で運転 無灯火 傘さし運転 一時不停止 ブレーキ利かない など
3,000	2人乗り 並走

この表の中の「歩道通行」に関しては、「自転車は車道通行が原則」とされる一方で、認められるケースを左下の表にまとめています。

ただし、歩行を通行する場合でも、次の交通ルールを守らなければならないとしています。

- ・歩道の中央から車道寄りをすぐに停止できる「徐行」の速度で進行すること
- ・自転車の進行が歩行者の通行を妨げるような場合は一時停止すること

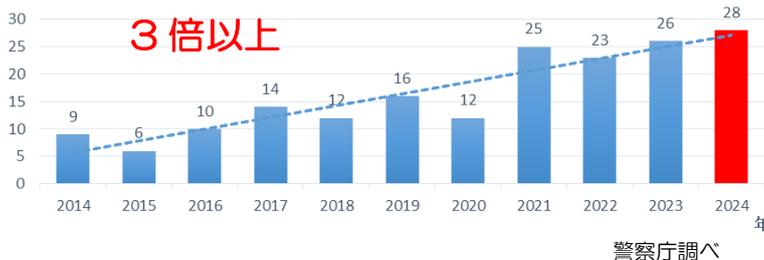
・「自転車通行指定部分」が設けられている場合であっても「徐行」での通行を原則とすること

そのうえで、青切符による取り締まりについては、交通事故に直結するような危険な行為をした場合や警察官の警告に従わずに違反行為を続けた場合など、「悪質・危険な行為」に限って対象にするとしています。

そして、「悪質・危険な行為」だとして取り締まりの対象となる可能性のある具体的なケースについては、スピードを出して歩道を通行し、歩行者を驚かせて立ち止ませた場合や警察官の警告に従わずに歩行通行を続けた場合などが考えられるということです。

自転車は、私たちにとって身近で便利な乗り物だといえます。だからこそ、歩行者はもちろんすべての人のための安全を見直す時期にきたと考え、自転車の乗り方の認識・運転を変えていかなければいけません。高校生になると青切符を切られる対象者となります。

自転車の携帯電話・スマホのながら運転による死亡・重傷事故



3倍以上

まなび野洲チャレンジ！ 40

今回はこの問題です。正しい答えの番号はどれでしょう。
答えは最下段に載せています。

佛性寺は、野洲市乙窪^{おちくぼ}にある寺院です。

お寺に伝わる「阿弥陀如来御縁起書」では、奈良時代の聖武天皇の天平年間に、僧の行基^{ぎょうき}と地元の惣官^{そうかん}である息長^{おきな}忠国^{ただくに}により寺が再建されたとあります。ということは、もっと以前に創建されていたということです。

また、平安時代には、平治の乱後、源義朝・頼朝親子がこの寺で待ち合わせしたため、平清盛の怒りをかい、焼き払われたこともありました。その後、武蔵坊弁慶が仮住まいし、別名弁慶堂と呼ばれる念仏堂が立てられています。その弁慶堂では、僧の法然が訪れ、ただひたすら念仏を唱えるという儀式を行っています。

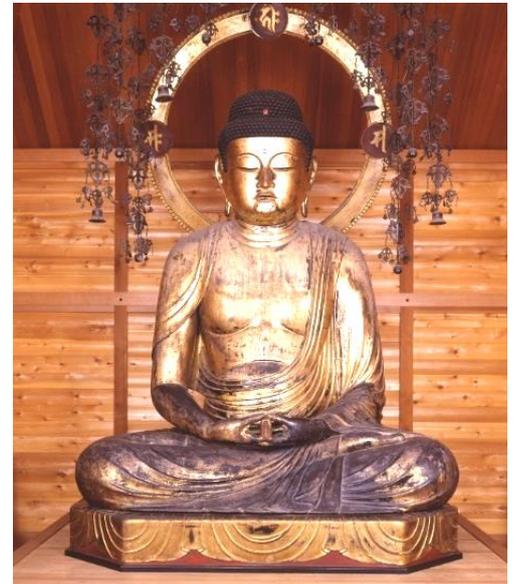
鎌倉時代には、源頼朝の寄進によって七堂伽藍に立派なお寺が建てられています。

安土桃山時代の天正年間には、織田信長の兵火により、建物はすべて焼失しましたが、幸い平安時代に作られた阿弥陀如来坐像は災厄を免れました。江戸時代に建てられたお堂に安置され、現在に至っています。

阿弥陀如来坐像は、背中に胎内仏を蔵しています。表情は、やや伏し目の眼差しと引き締まった口元の中に阿弥陀の慈悲と威厳を混然と一つに溶け込ませています。

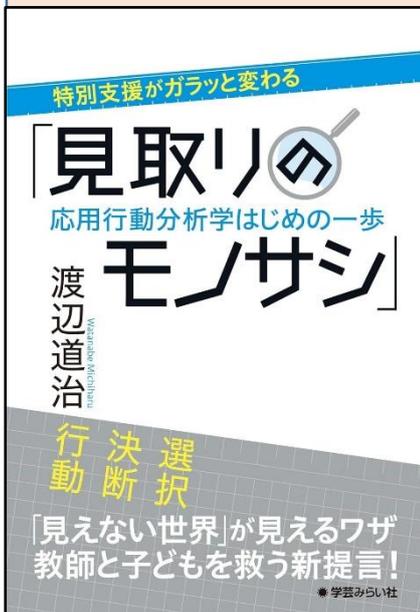
さて、問題です。この阿弥陀如来坐像は、国指定の重要文化財になっています。その身の丈は次のどれでしょう？

- ①81.5cm ②1m81.5cm ③2m81.5cm ④3m81.5cm



阿弥陀如来坐像

おすすめの1冊



『特別支援がガラッと変わる「見取りのモノサシ」』

応用行動分析学はじめての一步』

渡辺 道治 著

出版社 学芸みらい社

「応用行動分析学」で教室の特別支援の対応がガラッと変わる！
「何度注意しても離席する」「いきなり暴力をふるう」などの不適応行動。特に若い教師の間でこれらの子どもへの対応に苦慮しており、著者への講演依頼の半分以上が、この不適応行動となっています。不適応行動は「できない子」というレッテルで厳しく叱られがちですが、実はそれでは改善しません。「応用行動分析学」の観点から不適応行動を捉え直し、明日から使える技を「見取りのモノサシ」として、実際のエピソードをイラスト付きで解説しています。著者がSNSで行った「読みたい本アンケート」で最も

求める声が多かった企画を堂々書籍化！
第一章「見取りのモノサシを手に入れよう」
第二章「見取りのモノサシを磨こう」
第三章「見取りのモノサシを深めよう」
第四章「行動分析学のツールを手に入れよう 1」
第五章「行動分析学のツールを手に入れよう 2」
第六章「モノサシとツールを使いこなせる姿を目指して」